



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.88



独自素材とリサイクル素材を組み合わせ 機能的でサステナブルなシューズを

【プロフィール】

中国出身。日本の貿易商社に入社後、上海での拠点立ち上げに携わり、主席代表に就任。その後、2007年に福岡で独立。2011年にチル・ジャパン株式会社を設立しオリジナルシューズを販売する。

チル・ジャパン株式会社 代表取締役 弓長 玄明氏

軽量かつ耐久性の高い オリジナルシューズ

競合の多いシューズ業界において異彩を放つ靴を次々とリリースするブランド『ccilu (チル)』。福岡市博多区榎田のチル・ジャパン(株)は、「足元からリラックスを届け、社会環境からのストレスを心身ともに軽減させる」というコンセプトのもと、このブランドを手掛けています。

代表取締役の弓長玄明さんは貿易商社出身で、量販店向け作業服などの輸入に携わっていました。価格競争が激化する中、他社との差別化を図るために新たな商材を模索していたとき、台湾のシューズメーカーと出会い、2011年にチル・ジャパンを設立。現

在のチル・インターナショナルグループとなる台湾のシューズメーカーと協力しながら、独自のシューズ開発をスタートしました。その第一弾として、ランニングシューズのソールなどに使われている樹脂素材・EVAを、オリジナルの合成樹脂素材“チルセル”にアップデート。摩耗に弱いというEVAのデメリットを克服するだけでなく、軽さと柔軟性を併せ持ち、なおかつ耐久性に優れたシューズづくりを実現しました。弓長さんは「チルセルはクッション性が良く、長時間歩いたり、立ったりしていても疲れにくいという特性を持っています。汚れにも強く、泥まみれになったとしても水で流せばすぐに綺麗になります」と話します。

日本でのブランド展開は、創業後す

ぐに好評を博し、大手百貨店やスポーツ用品店などに商品が並んだものの、拡大戦略が仇となり一時過剰在庫を抱えることもあったそう。「それがきっかけで、もっと良い商品づくり、環境に優しい商品づくりを考えるようになりました」と弓長さんは振り返ります。現在は、ネットショッピングを中心にチルセル素材のスニーカーやサンダルなど、さまざまな製品を展開。ブロック風のデザインソールを採用した商品が若年層の人気を集めるなど業績は右肩上がり。また日本だけではなく、欧米やアジアなど、世界に販路を拡大しています。



1



2



3



4

1 チルセルを使った靴は柔軟性や衝撃吸収力に優れているため、看護や介護の現場でも使われており、福祉施設や病院などの寄付先を受付中

3 チル・ジャパンは、企業としてのサステナブル意識などを評価され「B Corp (Bコープ)」の認証を受けている

2 コーヒーかすを活用したシリーズ。防水タイプのブーツもあり、あらゆる天候で活用できると人気

4 5年かけて開発された海に捨てられたペットボトルをアップサイクルしたシリーズ。軽さや衝撃吸収など機能も充実

サステナブルな社会を 目指した商品開発へ

ブランドの名を一躍メジャーに押し上げたのが、コーヒーかすを使ったシューズシリーズです。チルセルとコーヒーかすを混ぜ合わせたサステナブルな素材を開発し、防水ブーツなどの新たなラインナップを展開。クラウドファンディングでは約1,400万円の資金を集めるなど大きな反響を呼びました。「単にコーヒーかすを素材に混ぜ込んだだけではなく、コーヒーが持つ除湿・除臭効果を生かして機能性をアップさせています。そうした商品開発を中心としているため、サステナブル領域では、他のシューズブランドを一步リードしているのではないのでしょうか。コーヒーかす以外にも、竹の廃材や牡蠣殻、パイナップルの皮などを使った独自素材の開発も進めています」と弓長さん。

一方、チル・ジャパンでは靴自体のリサイクルにも注目。履けなくなった靴を回収して高温・高圧で分解し、原料の油類に還元。その油を自社工場の燃料として使用することで、靴の製造から廃棄までを循環させる仕組みづくり

を進めていると言います。「チル・ジャパンはまだまだできたばかりの小さな企業なので、私たちだけでは実現が難しい部分もあります。ですから1社だけで完結させるのではなく、今後は同じような環境意識を持った企業などと協力しながら開発していきたい」と意気込みます。

日本、そして地域に 貢献する会社づくり

チル・ジャパンの環境への取り組みは国際的にも評価されています。2022年には、環境や地域社会に配慮した公益性の高い企業に対する国際的な認証制度「B Corp (Bコープ)」の認証を受けました。これは、事業内容や商品だけでなく、企業としてのサステナブル意識などを数値化して厳格に判断されるため、2022年12月時点で日本企業への認証は十数社に留まっています。さらにコーヒーかすを使ったブーツは、「GRS (グローバル・リサイクルド・スタンダード)」というリサイクル素材の国際的認証を取得。「この二つの認証取得は、企業そのものがサステナブルであることを

証明するものです。消費者単位では、まだまだ海外のほうがサステナブル意識が高く、循環型商品の購買意欲も高い状況です。今後、日本でもそういう時代が来るはずですよ」と弓長さん。

現状、アップサイクルした素材を活用し、海外の工場での製造も視野に入れているチル・ジャパン。加えて、会社がある地元・福岡にも貢献するため、福祉施設やエッセンシャルワーカーへの靴の寄付などを始めたと言います。現代人が社会環境から受けるストレスを足元から軽減させるというcciluのブランドコンセプトは、環境へのストレス軽減をも実現しそうです。

取材日：12月28日



チル・ジャパン株式会社
〒812-0004
福岡市博多区榎田1-9-1
榎田ハヤシビル2号室
TEL.092-409-2021
<https://www.ccilu.jp>

シューズ寄付
申込はこちら

